

れるようになるには、漠然と聴いているだけでは駄目なようです。ほぼ暗記したその1枚のCDを、なるべくそっくりそのまま復唱するところまで行って、やっとフランス語が随分聴き取れるようになりました。1つ難点といえば、気が遠くなるほどにうんざりする、苦勞するという点だと思います。しかし、それを何とか乗り越えたと、不思議と簡単に聴きとれるようになるので、苦勞する価値はあると思います。フランス語がある程度聴きとれるようになると、うれしいし面白いし、単語やフレーズをいつの間にか覚えていて、仏検の（リスニングの問題だけでなく）筆記のときにも役立ったりします。

リスニングで苦勞することも多いのですが、それと同時に、役に立ったり勉強になったりすることだってたくさんあります。ぜひ、フランス語のリスニングにも力を入れてみてください。

中国語を学んで

～検定試験に挑戦～

経営学部2年 樽林恵子

私が中国語を学習するにあたって、そのきっかけは一年生の時に必修であった中国語の授業でした。需要が高まる中国語を学習し、検定に取り組み合格することは、四年生での就職活動や仕事関係に役立つのではないかと考え、二年生になってから早速中国語検定4級を申し込みました。

申し込む以上、合格することを第一の目標にしました。初めてこの検定を受験する私にとって、4級というある程度学習が必要な級を受験することは、自分の語学レベルを把握し、出題の流れをつかむということも目的でした。今回は、語学の先生のアドバイス等のおかげもあり一回で合格することができました。合格するのにもかなりの学習時間を費やしたのも事実

です。一年生の春休みに問題集を購入し、コツコツとひたすらに過去の問題を解いていました。学校が始まると授業の課題やレポートに追われ、なかなか検定の勉強に割く時間が取れなかったけれども、問題集一冊を常に持ち歩き、暇な時間さえあれば問題の一つや二つを解いて、知識をつけようと思いました。繰り返し問題を解くことで、自分の苦手な部分を発見し、そして克服していくことで、確実に知識が身についてくるだけではなく、出題傾向も見えてきて、どこを重点的に勉強すれば合格に近づけるかということにも繋がりました。

問題の中には、ピンイン表記や声調の変化に関する問題があります。私にとって苦手な分野でした。生活の中で中国語に触れ合う機会がまだ少ないのもありますが、触れるとしても、日本人の私には聞き取れない声調・発音が多数あるため、リスニングで区別するのが難しかったです。そのほか、中国語は漢字で書かれているため、見れば意味はわかるだろうという考えを持つ人は多くいるでしょう。けれども、中国には簡体字というものがあり、日本で使われる漢字がくずれた風に使われています。その単語が何を意味しているかを理解するのも大変です。なので、英単語のように単語を暗記することも大切です。どの語学にも通じることですが、単語を多く覚えることで大雑把に内容を理解することができます。

私は中国語の勉強を始めてまだ一年しか経っていません。こうした普通の学習法でも、検定に挑戦することは可能なので、中国語に興味や関心のある方はぜひ自分の力量をためす機会として受験してみたいかがでしょうか。